

中小企業のSDGs

第12回：卸・小売業

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

100周年を機に考えた この先も持続可能な企業像

企業の事業内容に合わせてSDGsの目標達成について考える本コーナー。今回は卸小売業の取り組みを紹介する。

株式会社 久永

<p>人財教育と社員の健康</p> <p>最も重視している目標。社員の健康なくして継続的な成長は実現できないと考え、環境整備に努めている</p>	
<p>環境配慮の事業活動</p> <p>「もったいない」を意識し、製品のアップサイクルや太陽光発電設備の導入など、クリーンな環境づくりを行う</p>	
<p>価値ある製品・サービス</p> <p>DXや製品の品質向上と保守サービスなどを通じ、安心・安全なインフラの構築と強いまちづくりを実現する</p>	
<p>社会貢献とイノベーション</p> <p>教育・文化支援を行い、さらにイノベーションで企業と地域の発展に貢献する</p>	

掲げた4つの目標はSDGsの17項目

「100周年を前に、私たちが今後も生き残るために重要なことについてずっと考えていました。そのときにSDGsの存在を知り、今後100年も社会に必要なとされる会社になるには、これらのゴールを自分事として捉え取り組む必要があると感じました。そこで記

念の節目を機にSDGs宣言を行い、自社の経営方針と親和性の高いゴールを、事業に取り入れていくと社内外に公表しました」

「地域に根差し、地域と社員が共に成長し、常に地域に貢献する企業を目指す。」を定め、現在はその経営理念に沿ったSDGsとリンクする4つの目標を掲げ実践している。SDGsの普及活動

では鹿児島県をはじめとする自治体などと協同した取り組みも行っている。

例えば2023年4月の「メグルカグループジェクト」。一般社団法人 大崎町SDGs推進協議会と協力し、廃棄予定だった小学校の椅子136脚と学習机119台に価値を付加して再生するアップサイクルを呼びかけた。周辺企業や市民にアップサイクルのアイデアを募ったところ、多数の申し込みがあり、すべて再利用することができた。

ちなみにこの活動は日頃からオフィス家具の廃棄などに心を痛めていた社員の発言がきっかけだった。2022年9月にはSDGsを自分事として捉えて取り組む契機になるよう各事業所でチームを結成し、自分たちが今できることについて考え発表する「Hisanaga SDGsアワード」を開催した。久永さんは「最近のSDGsに関係する取り組みを見ていると、社員が変わってきていることが実感できます」と話す。

次の100年を視野に入れ、これまでと同様に社員一同で力を合わせ、地域に根差し貢献する持続可能な企業を目指していく。



Hisanaga SDGsアワードの様子。右端が久永修平さん。